

BUDŌ

NEWS

今月のニュース



東海大学4年 王子谷剛志に天皇杯

平成26年全日本柔道選手権大会

手権大会優勝

手権大会 優勝 穴井隆将

全日本柔道選手権大会

王子谷剛志が日本一

平成26年全日本柔道選手権大会は、4月29日、日本武道館で開催された。大会には、42名の選手が出場し、体重無差別のトーナメント戦で柔道日本一を争った。

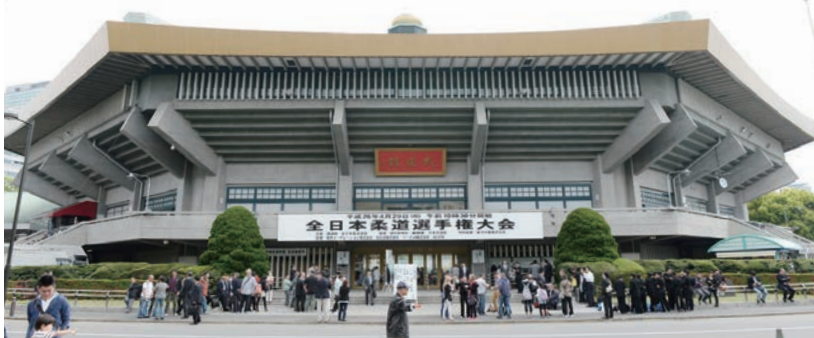
決勝は王子谷剛志三段（東海大）と上川大樹四段（京葉ガス）が対戦。王子谷が大外刈で一本勝。初めての日本一に輝いた。大学生の日本一は、平成20年の石井慧以来6年ぶり。



決勝＝王子谷（右）対上川。王子谷の大外刈が決まり一本勝

試合は国際柔道連盟試合審判規定（2014年施行の新ルール）で行われ、試合時間は6分間、時間内で勝負が決しない場合は、旗判定により勝敗を決した。

出場選手は、推薦選手（前年度準優勝者、2013年リオデジャネイロ世界選手権大会優勝者）2名と、



全国10地区の予選を勝ち上がった選手40名の計42名。

◇第1ブロック

今年のグランプリ・デュッセルドルフ、本大会東京地区予選、選抜体重別と優勝を重ね、勢いに乗る上川大樹（京葉ガス）は、初戦となる2



回戦で猪又秀和（東京学館新潟高教）に払腰で一本を奪うと、3回戦では野村幸汰（三光不動産）を内股で破り2試合連続の一本勝を収め、好調ぶりをみせた。

近畿地区予選優勝の吉永慎也（新日鐵住金）は、1回戦で谷井大輝（東海大）から反則勝（指導4）で勝利した。2回戦は辻玄太（旭化成）に有効となる背負投で退け、3回戦では鈴木蒼広（山梨学院大）に合技（袖釣込腰から上四方固）で勝ち上がった。

◇第2ブロック

九州地区予選で七戸龍（九州電力）を破り準優勝の西潟健太（旭化成）は、1回戦で黒岩貴信（筑波大）を、2回戦で中井貴裕（パーク24）を、3回戦で影浦心（東海大）をそれぞれ抑込技の一本勝で準々決勝へ駒を進めた。

2月のグランドスラム・パリで優勝した七戸は、初戦（2回戦）で羽賀龍之介（旭化成）に小外掛の技有を奪い勝利。3回戦では2年前の優勝者、加藤博剛（千葉県警）から開始37秒に内股を決め、一本勝とした。

◇第3ブロック

81kg級世界選手権代表の永瀬貴規（筑波大）は、初戦（2回戦）で熊代祐輔（ALSOK）に小外刈で一本勝すると、3回戦は吉田優也（旭化成）に指導2が付き、僅差で勝利し、ベスト8進出を決めた。

平成22年本大会覇者の高橋和彦（新日鐵住金）は、1回戦でウルファロン（東海大）に大外刈で技有を奪い勝利すると、順調に勝ち進み、3回戦では、最年少17歳の香川大吾（崇徳高）に合技（小外刈から横四方固）で一本勝した。

◇第4ブロック

王子谷剛志（東海大）は初戦となる2回戦で橋本憲宗（岩手県警）に小外刈、3回戦で73kg級の大野将平（旭化成）に指導3が与えられ僅差で勝利した。

昨年本大会準優勝の原沢久喜（日本大）は、初戦となる2回戦で森本翔太（札幌山の手高教）に袈裟固で一本勝。続く3回戦では増渕樹（旭化成）に内股すかしの有効を先取されるも谷落を決め、2試合連続の一本勝を収めた。



3回戦＝原沢（右）対増淵。原沢が谷落で一本勝



3回戦＝七戸（上）が加藤に内股で一本勝



2回戦＝永瀬（上）対熊代。永瀬が小外刈で一本勝



3回戦＝王子谷対大野。組み負けしない大野（右）



1回戦＝徳弘（左）対穴井

▽出場選手 中68kgで最軽量Ⅱ
徳弘哲弥選手（高知県警）
1回戦で重量級100kgの穴井亮平選手（了徳寺学園職）に敗退。
「立ち技で勝負しようと思っていたが、寝技に入られてしまいました。もったいなかったです。
軽量級の分、速く動いていたので、寝技で負けたのは悔しいです。寝技が強い選手だとは知っていました。逃げようとしたときに腕を伸ばしてしまい、そこをうまく狙われてしまいました。寝技は穴井選手のほうが上手でした」



1回戦＝香川（上）対藤田。有効となった香川の隅落

▽最年少で全日本出場Ⅱ
香川大吾選手（崇徳高）
高校生ながら中国地区の予選を1位で通過。180cm、135kg。初戦は藤田武志（石川県警）を隅落の有効で降したが、3回戦で高橋和彦に敗れた。
「初戦の藤田選手は力が強くて、自分の柔道をさせてもらえませんでした。高橋選手も、力が強く、圧倒されました。大人の強さを思い知らされました。
来年も全日本選手権に挑戦してみたいです」

準々決勝

上川大樹 ○反則勝 吉永慎也

81kg級の吉永は、自分より体重の重い選手に勝利してここまで勝ち進んできた。上背のある上川に対し、吉永は釣り手を掴むが、頭が下がってしまい、指導を受ける。吉永は攻めるも指導が累積。その後、吉永は腰が引けた状態から背負い投げを仕掛けるが、上川は動じないまま吉永だけが崩れた。吉永は4つ目の指導を受け反則負。上川の一本勝となり、準決勝進出を決めた。

西潟健太 ○袈裟固 七戸 龍

重量級の両者がしつかりと組み合い、足技を出し合う中、試合開始27秒、七戸が大内刈の有効ポイントを先取。その後、再び七戸が大外返の有効を奪いポイントでリードしたが、場外間際で西潟の払腰が有効となり、そのまま袈裟固で抑え込み、一本勝を収めた。



準々決勝＝上川対吉永。背負投を掛ける吉永（下）



準々決勝＝西潟（上）対七戸。西潟が袈裟固で一本勝

準々決勝＝永瀬（右）対高橋。有効となった永瀬の浮落



永瀬貴規 ○優勢勝 高橋和彦
永瀬は開始早々、内股で攻める。ケンカ四つの組手の攻防では、永瀬は引き手を取れないが、技を仕掛ける。42kgの体重差を感じさせない組手争いの中、開始37秒、組み合わない高橋に指導が与えられた。
その後、高橋は払腰、小外刈で攻めたが、決めきれない。永瀬にも指導が与えられた。終了間際、高橋が仕掛けた内股をこらえた永瀬は、浮落で返して有効を奪い、ベスト4進出を決めた。

王子谷剛志 ○大外刈 原沢久喜

大学4年生同士の対戦。しつかりと組み合い、先に技を仕掛ける原沢。その技に応じる王子谷。原沢の払腰をこらえた王子谷は隅落の有効を先取。その後、原沢は内股、払腰で攻め続け、王子谷に指導が付く。ポイントでリードする王子谷に対し、原沢は引くことなく攻めたが、最後は王子谷の大外刈がきれいに決まり、一本勝。

準々決勝＝王子谷（右）対原沢。王子谷が大外刈で一本勝



準決勝

上川大樹 ○送足払 西潟健太

両者の顔がぶつかり合うぐらいに接近した組手争いが続くが、なかなか技が出し切れない。両者に指導が与えられる。その後も組手争いが続くが、積極的に技を仕掛けているのは西潟。残り時間9秒、上川の内股を必死でこらえようめく西潟を場外間際まで追いかけて、最後は送足払で一本勝。上川が初の決勝戦へ勝ち上がった。



準決勝Ⅱ上川(左)対西潟。上川が送足払で一本勝

準決勝＝王子谷(手前)対永瀬。技有となった王子谷の背負投



王子谷剛志 ○合技 永瀬貴規

開始19秒、王子谷の背負投が技有となり、そのまま上四方固に抑え込むが、途中で崩れてしまい有効となる。再度、上四方固で抑え込み、合技の一本勝。王子谷が体力を温存したまま、日本一を決める決勝戦へ勝ち進んだ。

決勝

王子谷剛志 ○大外刈 上川大樹

どちらが勝つても初優勝の決勝戦。開始からしばらく、組手争いが続いて技が出ず指導が両者に与えられる。その後、上川が小内刈を掛けるが、王子谷は腹這いで逃げる。王子谷は足技を繰り返すと、上川はたまたまず場外へ。ここで上川に2つ目の指導が与えられる。中盤、王子谷にも指導が与えられ、両者の指導数が並ぶ。お互いどつしりと組み合った状態から王子谷が大外刈を仕掛ける。上川は一瞬こらえたが、耐えきれずに背中から畳に落ちて、勝負あり。王子谷が初の天皇杯を手にした。



上川（右）が払腰で攻める



試合時間4分18秒、王子谷（上）が上川から大外刈で一本勝

磨き続けた大外刈で日本一

優勝Ⅱ王子谷剛志三段（東京・東海大学4年）

柔道を始めたきっかけは。

「小学校に入る前に柔道五段の父親の影響で、井上康生先生の現役時代のビデオを繰り返し見せられていました。見様見真似で父親に内股をかけていました。」

小学校1年生で道場に通い始め、小学生の頃は大阪府大会で2位に入ったのが最高です。東海大相模中に入学した頃は、本当に弱くて、こんな名門校に入って柔道を続けていくのかと思っただけです。

当時は払腰中心でしたが、東海大相模高の林田和孝監督に『払腰では世界には通用しない。これからの中高6年間、大外刈を勉強しなさい』と助言を受け、稽古に励みました。中学入学当初から、高校3年生に対して、返されても大外刈をかけ続け、稽古した結果、高校生になった頃やつと自分の柔道に自信が持てるようになったんです。

6年間磨き続けた大外刈で日本一を決めた試合を振り返って。



「大会前にいろいろな記事を読みましたが、優勝候補に自分の名前が挙っていなかったのので悔しい思いをしました。どうにか見返してやるんだという気持ちで試合に臨みました。」

東京地区予選では、上川選手に、開始20秒くらいで大外刈を決められたので、勝ちたいという強い気持ちがありました。前半で勝負を仕掛けると、大外返があるので、後半まで粘り、息の上がったところを攻めようと意識しました。

今までできついことや、苦しいことに負けずに取り組み、一つ目標を達成したという気持ちで嬉しいです。

山下先生は9連覇、井上先生は3連覇。自分はまだ1回ですが、誇りに思っています」

【選手・関係者コメント】

▽準優勝Ⅱ上川大樹選手（京葉ガス）

「体力的には全然問題はありませんでした。この大会で優勝したいという気持ちは常に持っています。柔道家として全日本を取らないと一流じゃないですから。来年またこの舞台に立てるよう、気持ちをきりかえたいと思います」

▽3位Ⅱ西潟健太選手（旭化成）

「最後は詰めの甘さ、気持ちの甘さが出てしまいました。上川選手より技数で上回ればと意識しながら戦いました。最後に下がってしまったのが悔やまれます。時間があと少しだったので、心の中に『凌ごう』という気持ちが出てしまいました。それが良くなかったですね。判定で負けたら仕方ないと思ったのですが、そこまで持ち込むこともできませんでした」

▽3位Ⅱ永瀬貴規選手（筑波大）

「最後の試合はあつかなかったですね。逃げた後に『待て』かと思ひ、気を抜いてしまいました。今日は、

相手が嫌がる粘り強い柔道ができたのではないかと思います。」

世界選手権では、81kg級は勝てない階級と言われていますので、その壁を破って何としても優勝したいと思っています」

▽ベスト8Ⅱ

吉永慎也選手（新日鐵住金）

「反則負けという形で終わってしまった、悔しいです。大きい選手との組手を想定して、稽古に取り組んできました。上川選手には、完全に組み止められてしまいました。自分より大きい相手に対して、どのようにすれば組み止められないかを、もう少し勉強していきます」

▽ベスト8Ⅱ七戸龍選手（九州電力）

「一瞬の隙をつかれてしまいました。ここを勝たないと上がれないので、今日一番の山だと思っています。ポイントを取った後に引いてしまふ癖があるので、そこは意識していました。九州予選でも西潟選手に負けているので、多少は苦手意識もありました」

「永瀬選手には、組手でも引き手を制されていました。とても強い選手ですね。とは言つても、これだけ体重差があるのに負けるのは情けなしいの一言です。毎年『もう一度』と言つてだいぶ経つてしまいました。みんなが忘れた頃にもう1回優勝して、『ああ2回目か』みたいな感じになりたいです」

▽ベスト8 原沢久喜選手（日本大）

「王子谷選手が狙っているのは分かっていたのですが、反応できませんでした。」

また一からやり直し、来年は優勝できるよう頑張ります。国内で負けているようでは、世界選手権に出る資格ありません」

▽山下泰裕東海大学柔道部師範

「王子谷の良いところが出ましたね。原沢を投げた大外刈など、あのような技を出してくれると世界が見えてくると思いました。これで一皮むけて大きく成長してくれるのを楽しみにしています」

優勝 王子谷剛志



形演武



投の形Ⅱ
取・金丸雄介五段、受・横山喬之五段



柔の形Ⅱ
取・横山悦子女子七段、受・大森千草女子六段



五の形＝
取・佐藤伸一郎七段、受・増地克之六段

国際柔道連盟試合審判規定の改正と全日本柔道選手権大会（女子も含む）に適用されるルールについて

国際柔道連盟は本年1月に試合審判規定を改正した。改正した内容については以下のとおり。

① 試合場地上がる審判員が1名に

ただし、全日本選手権では従来通り、主審1名、副審2名の3名体制で行う。

② 指導が厳しくなるものの、指導の数はポイントに反映されなくなった
組み合わない、偽装攻撃、過剰な防衛姿勢についてはこれまでよりも厳しく指導が与えられる。

従来は指導2で有効が、指導3で技有が相手に入っていたが、今後は入らない。ただし、指導4は反則負となる。試合終了時に技によるポイントが同数の場合、指導数が少ない方を勝者とし、指導数も同数の場合は、ゴールデンスコア方式の延長戦を時間無制限で行う。

ただし、全日本選手権では勝敗を決する指導差を2以上とし、1もしくは同数の場合は、旗判定によって勝敗を決し、延長戦は行わない。

③ 試合時間は男子5分、女子4分に
ただし、全日本選手権では男女ともに6分で行う。

④ 帯から下への攻撃は反則負
帯から下への攻撃は1回目で直ちに反則負となるが、寝姿勢の場合はこのかぎりではない。

⑤ 抑込の時間短縮

抑込の時間がそれぞれ5秒短縮され、20秒で一本、15秒で技有、10秒で有効となる。また、場内で抑え込んだ後、両者が場外に出たとしても抑込は継続される。また、立技の攻防から場外に倒れ込み、直後に抑え込んだ場合は、両者が場外に出ている抑込となる。

⑥ 場外は指導
一方の片足が場外に出た場合、直ちに回り込んで場内に戻るか、技をかけなければ指導が与えられる。両足が出た場合は指導が与えられる。相手や自分の技によって場外に出た場合は「待て」となる。

⑦ 抑込で裏姿勢が有効に
従来、抑込は袈裟と四方の姿勢が認められてきたが、今後は裏の姿勢も有効となる。

2014年世界柔道選手権大会、日本代表選手出揃う

全日本柔道選手権大会終了後、強化委員会が開かれ、8月25～31日にロシア・チェリヤビンスクで開催の世界選手権日本代表選手中、決まっていなかった男子100kg超級の代表が決定した。なお、100kg級の派遣は見送られ、73kg級、66kg級にそれぞれ追加選手の発表があった。

◆男子

▽100kg 超級Ⅱ上川大樹（京葉ガス）

七戸龍（九州電力）

▽90kg 級Ⅱベイカー・葉秋（東海大）

▽81kg 級Ⅱ永瀬貴規（筑波大）

▽73kg 級Ⅱ大野将平（旭化成）、中矢力（ALSOK）

▽66kg 級Ⅱ海老沼匡（パーク24）、高市賢悟（東海大）

▽60kg 級Ⅱ高藤直寿（東海大）

◆女子

▽78kg 超級Ⅱ山部佳苗（ミキハウス）、田知本愛（ALSOK）

▽78kg 級Ⅱ佐藤瑠香（コマツ）

▽70kg 級Ⅱヌンイラ華蓮（了徳寺学園職員）

▽63kg 級Ⅱ田代未来（コマツ）

▽57kg 級Ⅱ宇高菜絵（コマツ）、松本薫（フォーリーフジャパン）

▽52kg 級Ⅱ橋本優貴（コマツ）

▽48kg 級Ⅱ近藤亜美（三井住友海上）

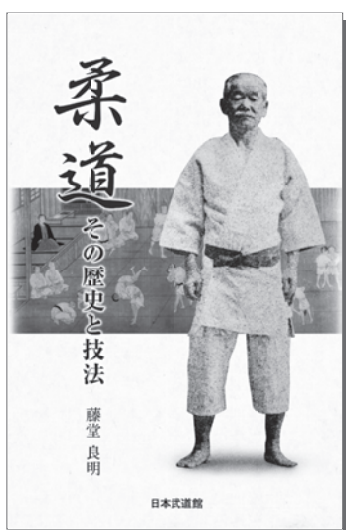
好評発売中!

柔道

その歴史と技法

筑波大学体育系教授 藤堂 良明 著

「原点に帰る」には、「原点を知る」必要がある。



四六判・上製・330頁・本体2,400円＋税

柔道の歴史を振り返りつつ、その技法が、どのように形作られてきたのかを、丁寧に解説しています。



武道の稽古は、技を通して精神を磨き、やがて社会のためになるという教育の道でもあった。時代は移り変われども、日本の伝統に培われた武道としての柔道を見失わないでいただきたいと願うものである。(本書「あとがき」より抜粋)

目次

- | | | |
|--|--|---|
| <p>第一章 組討ちの起こりと技法</p> <p>体術の起こりと技法</p> <p>組討ちの体系化と技法</p> | <p>第三章 講道館柔道の歴史と技法</p> <p>講道館柔道の創設と技法</p> <p>嘉納治五郎の乱取開発</p> <p>講道館柔道の行事と整備</p> <p>警視庁武術大会の勝利と技法</p> <p>学校体操への柔道導入の試み</p> <p>学校における柔道普及の実態</p> <p>高専柔道の起こりと技法</p> <p>嘉納治五郎の他武道への接近</p> <p>精力善用国民体育の創案と技法</p> <p>全日本柔道選士権大会の開催と技法</p> | <p>第四章 第二次世界大戦後の柔道復活と技法</p> <p>第二次大戦中の柔道界と技法</p> <p>第二次大戦後の柔道禁止と復活</p> <p>格技柔道から武道柔道へ</p> <p>女子柔道の競技化と技法</p> |
| <p>第二章 柔術諸流派の歴史と技法</p> <p>竹内流腰廻</p> <p>関口新心流柔術</p> <p>起倒流柔術</p> <p>起倒流柔道</p> <p>直信流柔道</p> <p>真之神道流柔術</p> <p>天神真楊流柔術</p> | <p>第五章 柔道技法の変遷と国際化への課題</p> <p>柔道技法の変遷と特徴</p> <p>柔道の国際的普及と発展</p> <p>段位制度の国際比較</p> <p>柔道の国際化と課題</p> | |

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)

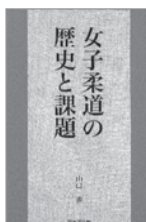


役に立つ 少年柔道指導法

講道館道場指導部課長

向井 幹博 著

(A5判・並製・DVD付・414頁)



女子柔道の 歴史と課題

筑波大学体育系准教授

山口 香 著

(四六判・上製・412頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)

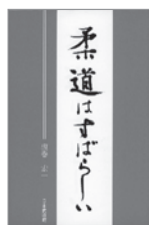


武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



柔道は すばらしい

柔道塾紀柔館館長

腹巻 宏一 著

(四六判・上製・310頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)



武道 子どもの心を育む

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



柔道の国際化 —その歴史と課題—

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

(四六判・上製・552頁)



嘉納治五郎師範に学ぶ

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

(四六判・上製・292頁)

山部、再び戴冠



決勝＝田知本の内股を透かした山部（右）が払腰をかける

第29回皇后盃全日本女子柔道選手権大会（主催Ⅱ講道館、全日本柔道連盟）は4月20日、神奈川・横浜の横浜文化体育館で行われ、推薦選手や全国各地区の代表35名が出場して、体重無差別による女子柔道日本一を目指して熱戦が展開された。

決勝では山部佳苗（ミキハウス）やまべ かなえが田知本愛（ALSOK）たちもとめぐみを破って2年ぶり2度目の優勝を果たした。3位には市橋寿々華（大阪府警）と岡村智美（コマツ）が入った。

本大会は国際柔道連盟試合審判規定に従って行われたが、全日本柔道選手権大会同様、特別にルールが加えられた。本年1月から適用されている新ルールとともに詳細は全日本柔道選手権大会147ページを参照。

【優勝選手 Profile】

山部佳苗（やまべ・かなえ）北海道出身

東栄中→旭川大高→山梨学院大→ミキハウス

平成2年9月22日生まれ（23歳）

172cm105kg・右組み

（主な戦績）

平成17年	全国中学校大会	2位
平成19年	全国高等学校総合体育大会	3位
平成20年	全日本ジュニア	優勝
平成21年	全日本ジュニア	優勝
	世界ジュニア	3位
平成22年	講道館杯	優勝
平成23年	全日本女子選手権	3位
	全日本学生体重別選手権	優勝
平成24年	全日本女子選手権	優勝
	全日本選抜体重別選手権	2位
	全日本学生体重別選手権	優勝
	講道館杯	3位
平成25年	グランプリ・デュッセルドルフ	3位
	全日本女子選手権	3位
	全日本選抜体重別選手権	2位
	グランドスラム・モスクワ	2位
	講道館杯	3位
平成26年	グランドスラム・東京	2位
	グランドスラム・パリ	優勝
	全日本選抜体重別選手権	優勝
	全日本女子選手権	優勝



田知本から払腰で一本勝

第29回皇后盃全日本女子柔道選手権大会

前回優勝の緒方亜香里（了徳寺学園職）は昨年の選抜体重別後の稽古中に右膝前十字靭帯を断裂。現在、治療のため欠場した。

この大会の優勝経験がない田知本愛（ALSO K）や前々回優勝の山部佳苗（ミキハウス）、それらを追う市橋寿々華（大阪府警）や白石のどか（JR東日本）、57kg級ながら昨年に続いて出場の出口クリスタ（山梨学院大）らに注目が集まった。

■序盤戦

▽第1ブロック

上野三姉妹の末っ子、上野巴恵（自衛隊体育学校）は、初戦の2回戦で谷村美咲（帝京科学大）に敗退した。谷村は3回戦も勝って8強に駒を進めた。

市橋寿々華（大阪府警）は初戦を上四方固で一本勝すると、3回戦は稲森奈見（三井住友海上）を相手に浮落から横四方固の合技で一本勝ち、準々決勝進出を決めた。

▽第2ブロック

悲願の初優勝を目指す田知本愛（ALSO K）が2回戦から登場した。初戦、畑村亜希（日本エースサ



3回戦＝57kgの出口（右）が110kgの白石に果敢に挑む



3回戦＝山部（上）が菅原を50秒で降した

■選手コメント

●出口クリスタ選手（山梨学院大）

「無差別は、何が起こるか分からず、小さい者が勝つこともあっておもしろいです。重い人との試合は重心移動を覚えたり、得るものが大きいです」

●村瀬晴香選手（ヤックス）

柔道の助けになればと始めたサンボのユニバーシアードに昨年出場し、銅メダルを獲得した。

「サンボは技を掛けつづれたりすると相手のポイントになるので、しっかりと立ったまま技を掛ける稽古しました」

その稽古が実り、今大会では……と書きたいが、結果は初戦敗退。

「対策を練ってきましたが、相手の方がうまく、技が出せませんでした」

初出場だった昨年も初戦で上野巴恵に敗れている。

「一回くらい勝ちたいです」

ポート）を指導差2の僅差で降すと、3回戦は月野珠里（山梨学院大）を体落からの横四方固で合技一本。順当に準々決勝へ勝ち進んだ。

昨年のグランドスラム東京女子70kg級優勝の新井千鶴（三井住友海上）は危なげない試合運びでベスト8進出。

▽第3ブロック

4月の選抜体重別で敗れ、世界選手権代表に落選した岡村智美（コマ

ツ）が登場。初戦の2回戦で村瀬晴香（ヤックス）を一本勝で破ると、3回戦は日高美沙希（大阪体育大）を崩上四方固で退けて、8強入りを果たした。

出口クリスタ（山梨学院大）は57kg級ながら昨年に続いて体重無差別の本大会に出場した。初戦の相手は鈴木真佑（仙台大）で、本大会では珍しい57kg級の選手同士の対戦となった。出口は小外刈で技有を奪って

先制すると、終盤に内股で合わせて一本。続く3回戦は白石のどか（JR東日本）が相手。ほぼ倍に近い53kgもの体重差がありながらも、白石の組手を巧みに封じて試合を運んでいたが、出足を捉えられて一本負。白石が準々決勝進出を決めた。

▽第4ブロック

2年ぶりの優勝を目指す山部佳苗（ミキハウス）は2週前の選抜体重別を優勝して本大会に臨んだ。初

戦の2回戦は吉村静織（三井住友海上）を相手に反則勝で勝ち上がる。と、3回戦は菅原歩巴（つくばユナイテッド）を横四方固に抑え込んで、開始50秒で試合を決めた。

月波光貴穂（帝京大）は高校生だった昨年に続いて2度目の出場。初戦は開始55秒で小外掛を決めると、続く3回戦では烏帽子美久（JR東日本）を相手に小外掛（技有）から横四方固に抑え込んで一本勝した。

■準々決勝

市橋が順当に勝利

市橋寿々華 ○浮落 谷村美咲
市橋右、谷村左のけんか四つ。谷村はよく攻めるが市橋には効いていない。2分、場外際で市橋が谷村を右前隅に崩すと、谷村は堪えきれずに、市橋が持った引き手に導かれるように畳に落ちた。

◎5位Ⅱ谷村美咲選手(帝京科学大)

「トップの人たちとの差を感じました。大きな試合に慣れていないし、成績も残せていないので強化選手に入ったことがあります。あと一歩が進めない感じなので、試合数をとにかくこなしたいです。今は強化選手に入ることを目指しています。ゆくゆくは日本代表を争えるように稽古していきたいです」

田知本、新井を仕留めきれず

田知本愛 ②優勢勝 新井千鶴

体格で劣る新井は田知本の左腕を引き手で制して、必死に技を潰しにかかるが、田知本の力に圧倒され、幾度も体が浮き上がる。それでも積極的に技を仕掛ける新井だったが、田知本には通じない。徐々に新井に指導が貯まり、田知本が優勢勝。

◎5位Ⅱ新井千鶴選手(三井住友海上)

「最近、自分の柔道が出せる試合がなくて、今日は胸を借りる気持ちで臨みました。田知本選手を崩しにいきましたが動きませんでした。試合の中で、自分の良いところ、悪いところが見えてきたので、悪いところを修正していきます。選抜以降、余計なことを考えてもやもやしていました、今日の試合で晴れました」



準々決勝＝市橋（奥）の浮落が決まる



準々決勝＝田知本（左）が新井を攻める

岡村が初めての準決勝へ

岡村智美 ○内股 白石のどか

岡村は組手争いを制して白石に十分組ませない。それでも白石は攻めるが、岡村はこれを捌く。指導が3つにつき、後がなくなった白石が前に出てくるのを待ち構えていたように岡村が内股で切って落とし、自身初となる準決勝に駒を進めた。

◎5位Ⅱ白石のどか選手(JR東日本)

「全然だめでしたね。組んだら大腰にいく自分の攻撃パターンを研究さされていて、釣り手を切られてしまいました。もっと幅の広い柔道ができるようにしないといけないですね。自分の組手がだめだということはいわゆるかっているのですが、やはり、どうしても得意の大腰に頼ってしまいます」



準々決勝＝岡村(左)の内股に白石の体が宙を舞う

山部が力の差を見せつける

山部佳苗 ○合技 月波光貴穂

山部は右、月波が左のけんか四つ両者。山部が釣り手を常に近い位置で持っている状態で、月波が下から持たされている体勢。月波が無理に入った内股を山部が透かすと、月波はバランスを崩す。この隙を見逃さなかった山部が腕だけで制しながら倒れ込むと技有を獲得。そのままきれいに袈裟固に入り、きつちり合技で準決勝進出を決めた。

◎5位Ⅱ月波光貴穂選手(帝京大)

「山部選手は強い選手なので、とにかく攻め続けようと思いました。技の数で勝てたらいいな。でも攻め



準々決勝＝山部(上)が月波を相手に一本勝

が遅い上に単発になってしまいました。左肩を怪我していて、この後、手術をする予定です。復帰まで3カ月くらいかかるので、その間に体を作って今よりも力をつけたいです」

■準決勝

田知本が抑え込んで一本勝

田知本愛 ◎横四方固 市橋寿々華

両襟を持って攻めるスタイルの両者だったが、田知本の技数が勝り、市橋に指導が貯まる。場外際、田知本は払腰を堪えられると、今度はそのまま大外刈に移行し、市橋を横倒しにし、素早く横四方に抑え込んで一本勝した。田知本は2年連続で決勝の舞台へ。

◎3位Ⅱ市橋寿々華選手(大阪府警)

「田知本選手の圧力がすごかったです。選抜のときも組手で腕を固められて全然動きませんでした。右手を動かして崩す練習をしたので、今回は選抜のときよりは技に入れるようになったと思います。試合に出るからには優勝を目指しているので、3位という結果には満足していません。まだまだ相手が強いので練習しなくてはいいけないと思います」



準決勝＝田知本（右）は払腰を堪えられるとすぐに大外刈に移行した

岡村、得意技を透かされ散る

山部佳苗 ○内股透 岡村智美

山部はたびたび岡村の体を跳ね上げ、岡村がこれを堪えながらの試合展開。場外際、岡村の内股を山部は軽々と凌ぐと、もう一度飛ばしてきた内股を難なく透かし、目標を失った岡村の左足が垂直に伸びたときには山部はすでに岡村の体を制し、そのまま畳へ。山部が2年ぶりの決勝に勝ち進んだ。

◎3位Ⅱ岡村智美選手(コマツ)

「同じ階級の緒方選手が優勝して、自分もできると思うようになりました。この大会に向けて修徳高校で男子と稽古をしました。初めてベスト4まで上がれましたが、来年は頂上目指して頑張ります。最近はお出場の大会で2位ばかりなので、口惜しい思いもたくさんしてきましたが、それがいい方向に向いてきていると最近では思っています。支えてくださった方々に恩返しがしたいです」



準決勝＝山部（右）の技に岡村は我慢の試合となった



山部（奥）はオール一本勝で優勝を決めた

■決勝

山部が豪快な一本勝

山部佳苗 ○払腰 田知本愛

2週前の選抜体重別78kg超級決勝でも対戦した両者。その時は指導差1の僅差で山部が勝利を収めた。

普段は技出しの遅い田知本が先に攻める展開となった。序盤、山部が守勢に回る。先に山部に指導がつき、さらに、両者に指導がついた。

山部は払腰、内股、大腰、田知本は払腰、大外刈、小外刈で攻める。技の効果が見られない展開が続いたが、試合の終結はあっさり訪れた。

場外際、山部は田知本の内股に素早く反応してこれを透かし、さらに田知本の軸足を払うと、田知本は勢いよく背中から畳に落ち、山部が2年ぶり2度目の優勝を勝ち取った。

●準優勝Ⅱ田知本愛選手(ALSOK)

「悔しいです。組手がうまくいきませんでした。今日の反省を活かして今後やっていきたいです。以前にも透かされたことがあるのに同じパターンでやられてしまいました。山部選手とはどちらが勝ってもおかしくない試合になってきました」



講道館護身術＝取・守安由充六段
受・上坂正語五段



固の形＝取・中山智史四段
受・林 聖治四段



●優勝Ⅱ山部佳苗選手（ミキハウス）

が、今は代表になって金メダルを獲りたいと明確に思うようになりました。指導陣の方々の期待に応えたいと思っています」

この気持ちも2年前には持っていなかったものだ。他にも成長したところをこゝ分析する。

「相手にポイントでリードされてると焦っていましたが、落ち着いて自分の組手になったときに技をかけられるようになってきました」

力の弱さで、その使い方もわかっていないと語る。山部は現在、怪我をしたため選手がリハビリのために行うメニューに取り組んでいるという。

「それでも辛いです。最近は徐々に負荷が上がってきています。試合で頭が下がってしまう場面があり、力負けを

今後、乗越えていきたいです」

全日本覇者は負けることが許されな
い。そういう覚悟を持って世界選手権
に臨み、最高の結果を手にすることを
期待したい。

優勝 山部 佳苗



好評発売中

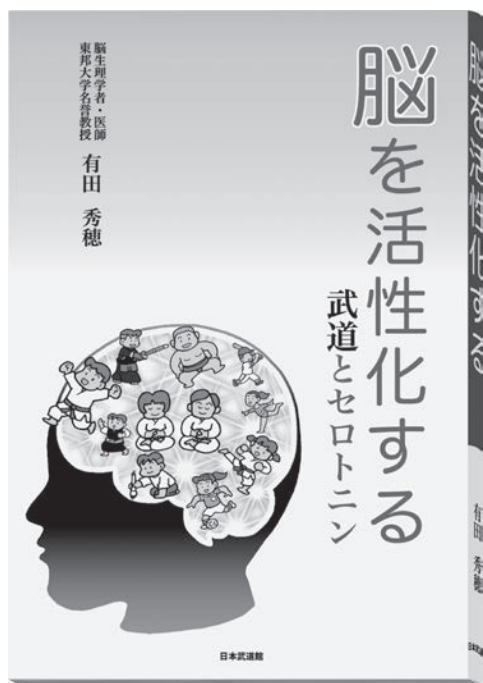
脳生理学者・医師
東邦大学名誉教授

有田 秀穂 著

脳を活性化する

武道とセロトニン

人間の心身を安定させ、「無心」の状態を作るセロトニン神経―その研究の第一人者が、丹田呼吸法を手懸かりに、武道や禅、日本文化を題材として、誰もが
できる脳を活性化する方法をわかりやすく解説。



A5判・並製・346頁・1600円+税

有田 秀穂
(ありた・ひでほ)

昭和23年(1948)東京都生まれ。東京大学医学部卒業。東海大学医学部助手、筑波大学基礎医学系講師、東邦大学医学部教授を経て、現在、東邦大学名誉教授。脳生理学者、医師。セロトニン道場代表。



主な内容

第1部 脳の活性化とは

坐禅とセロトニン
ストレスとしごき
空海はセロトニン活性の達人
『弓と禅』に学ぶ身体トレーニング
沢庵の「不動智」とワーキングメモリー
不動明王と心の三原色
『弓と禅』に学ぶ無意識の自己意識
悪夢を消すには？

精進料理とセロトニン合成
「茶の湯」とセロトニンの生活
「自然に体が動いた」を脳科学で解く
勝海舟の「明鏡止水の心」を脳科学する
「武道の礼法」は社会脳を育む
相撲の「四股」は品性を育む
書道も心技体の人間修行
アンドロゲンと闘争心

日本の祭にはセロトニンがたっぷり
スキップとオキシトシン
空手の稽古は坐禅修行に通じる
脳は「丹田呼吸法」をどう操るか
試合における最適な覚醒状態
サイエンスは「気」をどこまで解明したか
仙人術を脳科学する

第2部 対談「武道で脳を活性化しよう」

日本武道館会長 松永 光
東邦大学名誉教授 有田 秀穂

： 他

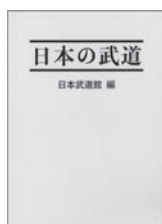
編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本（本をクリックすると、詳細が表示されます）



日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

（翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット）

（B5判・上製・DVD付・336頁）



武士道に学ぶ

皇學館大学教授

菅野 覚明 著

（四六判・上製・344頁）



武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家

小笠原清忠 著

（四六判・上製・278頁）



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）



<増補版> 私も武道経験者です

月刊「武道」記者

吉野 喜信 著

（四六判・上製・326頁）



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）



武道・ スポーツの真髄

スポーツドクター

辻 秀一 著

（四六判・上製・248頁）



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）



武の素描

埼玉大学教授

大保木輝雄 著

（四六判・上製・220頁）



一般第1部決勝副将戦 神奈川。鈴木が上胴を決める

第58回全日本銃剣道優勝大会

一般第1部

神奈川が連覇

防衛省第1部は22普連が優勝

第58回全日本銃剣道優勝大会は4

月20日、日本武道館で開催され、一

般第1部（都道府県連盟）、一般第

2部（実業団、クラブ、道場、大学

等）、防衛省第1部（陸上指定、防

衛省第2部（海、空、第1部以外の

陸上）の4部門で日本一を争った。

一般第1部は神奈川県が前回に引

き続き日本一に輝き、一般第2部で

は国士舘大A（東京）が優勝した。

防衛省第1部は第22普通科連隊（宮

城）が12大会ぶりの優勝、防衛省第

2部は日本原駐屯地（岡山）が11連

覇を果たした。

一般第1部

24チームが出場。トーナメント方

式で、1チーム5名の団体戦が行わ

れた。試合は3分間3本勝負で、勝

敗が決しない場合は旗判定となる

（全部門共通）。

前回優勝の神奈川は、初戦となる

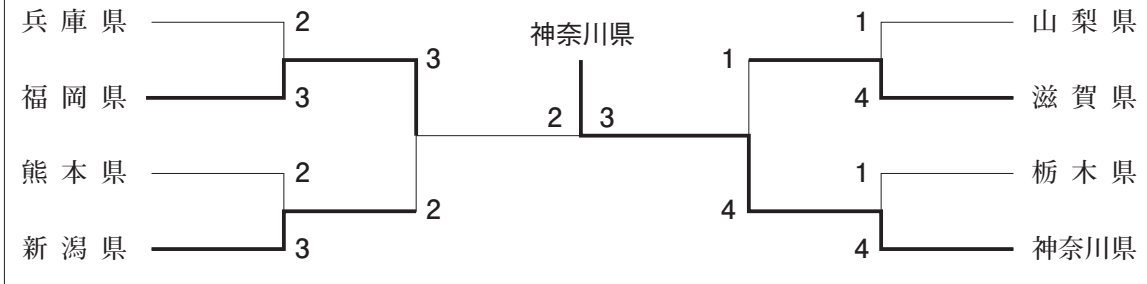
2回戦で岡山を5対0、3回戦で栃

木を4対1で下し、準決勝に進んだ。

また、福岡、新潟、滋賀の各チーム

が準決勝に駒を進めた。

一般第1部組合せ（ベスト8以降）



◇準決勝

福岡 3-2 新潟

古澤将之 上上 野口将史

立道久也 判 高橋駿平

大谷久邦 上 滝沢元氣

福本茂敏 下 渡邊健斗

田中重昭 上上 猪友一

福岡が先鋒戦、次鋒戦と勝つてリードすると、中堅戦、副将戦で新潟

が取り返す。同点で迎えた大将戦、

福岡が上胴を2本奪って決勝進出を

決めた。

神奈川県 4-1 滋賀

野原 崇 上判 上 寺村大佑

音琴直樹 下 古谷一真

柴田良平 上上 田中 優

鈴木崇之 上 田中雅人

下机信光 コー 神田 稔

先鋒戦は神奈川県に軍配が上がる。

次鋒戦で滋賀が1勝あげるも、中堅

戦から大将戦まで神奈川県が連勝して

4対1とした。

◇決勝

神奈川県 3-2 福岡

野原 崇 下上判 古澤将之

音琴直樹 判 立道久也

柴田良平 下 大谷久邦

鈴木崇之 上上 福本茂敏

下机信光 判 田中重昭

先鋒戦、終盤に神奈川県・野原が下

胴を奪うと、福岡・古澤は上胴で一

本返す。同点のまま終了となり、古

澤が判定勝ちする。次鋒戦は両者決

め手なく終了し、判定の結果、神奈

川・音琴が勝って1対1に。

中堅戦は神奈川県・柴田が終了間際

に下胴を決めて一本勝ち。続く副将

戦は神奈川県・鈴木が終盤に上胴を2

本連取し、神奈川県が優勝を決めた。

大将戦は福岡・田中の判定勝ちとなり

り、結果は3対2。神奈川県が2年連

続5回目の優勝を勝ち取った。

◎優勝 神奈川県・山田明監督

「年々、各都道府県チームの実力は

上がってきている中、選手がよく頑

張ってくれました。勝ちもあれば負

けもありましたが、うまく噛み合っ

て、安心して見ることができました」



一般第1部優勝 神奈川県

一般第2部

14チームが出場した。試合は1チーム3名の団体戦。4グループに分かれてリーグ戦を行い、各リーグ1位と2位の計8チームによるトーナメントで優勝が争われた。

準決勝には前回優勝のALSOK A（東京）のほか、前回2位の防衛大A（神奈川）、前回3位の国士舘A（東京）、トヨタ自動車（愛知）が進出した。

◇準決勝

防衛大A 2-1 ALSOK A

山田祐治 一下下 飯嶋 一

片桐弘一郎 判一 三浦玄徳

谷口善幸 下下 阿藤浩和

ALSOK Aが先鋒戦を勝って先制するが、中堅戦は判定で防衛大に軍配が上がり、大将戦も防衛大Aが勝って決勝へ駒を進めた。

国士舘大A 2-1 トヨタ自動車

相田浩俊 一下上 小口 亨

野田峻祐 判一 竹谷 武

稲 大貴 上判一上 富田忠義



一般第2部決勝先鋒戦＝国士舘大A・相田（左）が下胴を決める

◇決勝

国士舘大A 2-1 防衛大A

相田浩俊 下 山田祐治

野田峻祐 下上上 片桐弘一郎

稲 大貴 下上上 谷口善幸

先鋒戦は中盤に国士舘大A・相田

先鋒戦はトヨタ自動車が勝つ。中堅戦、大将戦は国士舘大Aが判定勝ちして、決勝進出を決めた。

が防衛大A・山田から下胴を奪って一本勝ち。続く中堅戦では、防衛大A・片桐が上胴で先制するも、国士舘大A・野田がすぐに下胴で一本返し、さらに上胴を決めて逆転、2勝目をあげた。大将戦は防衛大A・谷口が上胴で2本勝ち。

結果、2対1で国士舘大Aが優勝に輝いた。国士舘は、平成13年に一般の部が2部制になってから初めて

一般第2部組合せ（ベスト8以降）

国士舘大A（東京）			
防衛大学校A（神奈川）	2	3	トヨタ自動車（愛知）
本間道場（神奈川）	1	0	ALSOK B（東京）
ALSOK A（東京）	3	1	千葉小林道場（東京）
ALSOK C（東京）	0	2	国士舘大A（東京）



一般第2部決勝中堅戦＝国士舘大A・野田（左）が下胴を決める

の優勝となった。
◎優勝Ⅱ国士舘大A・戸水俊輔監督
「それぞれのメンバーが、それぞれの持ち場で力を発揮し、みんなで勝ち取った優勝だと思っています。また、今日はALSOOKのメンバーとして出ている卒業生の南剛志選手が主導で朝稽古を始めたのですが、毎日それを繰り返してきた成果が現れ



一般第2部優勝＝国士舘大A（東京）

防衛省第1部

たのだと思います。彼は選手を引っ張ってくれた陰の尽力者です。感謝しています」
62チームが出場。トーナメント方式で、1チーム5名の団体戦が行われた。

準決勝に駒を進めたのは、16普連（長崎）、42普連（熊本）、22普連（宮城）、前回優勝の1普連（東京）の4チーム。

◇準決勝

42普連	4-1	16普連
橋本吉紘	一判	永富 滋
藤井星丸	上	野田健太
小村光二	上判	北慎一郎
金子和憲	上上	中前圭輔
田尻竜三	判	藺田泰之

先鋒は16普連の勝ち。しかし次峰から大将まで42普連が制して決勝進出を決めた。

◇決勝

22普連	3-2	1普連
黒木聖人	上判	江良将人
甲斐政輝	下	川村貴嗣
近藤英治	上	山崎泰弘
高橋 新	判	室坂佳祐
小野雄大	一判	松野和樹

22普連が先鋒、次鋒と勝って先制する。中堅戦は1普連に取られるも、副将戦の判定勝ちで22普連が3勝目をあげた。大将戦は敗れ、結果は3対2。前回優勝チームを破つての決勝進出となった。

22普連	3-2	42普連
黒木聖人	下ノ	橋本吉紘
甲斐政輝	下判	藤井星丸
近藤英治	上上	小村光二
高橋 新	上上	金子和憲
小野雄大	上下	田尻竜三

先鋒戦は開始直後、22普連・黒木が下胴、ノドと立て続けに奪って2本勝ちする。次鋒戦は22普連・甲斐が中盤に下胴を決めると、終盤、42普連・藤井が上胴で取り返す。同点のまま終了となり、判定の結果22普



防衛省第1部決勝先鋒戦＝22普連・黒木（左）が下胴を決める



防衛省第1部決勝次鋒戦＝22普通連・甲斐（左）が下胴を決める



防衛省第1部優勝＝第22普通科連隊（宮城）

連・甲斐が勝って2対0。

勝負のかかった中堅戦、22普通連・

近藤が上胴を2本決め、22普通連が3勝目を勝ち取った。副将戦と大將戦は、それぞれ42普通連の金子と田尻の2本勝ちにより、3対2で22普通連の12大会ぶりの優勝が決まった。

◎優勝Ⅱ22普通連・山田壮一監督

「優勝という大きな目標ではなく、

昨年のベスト8を上回る目標を設定

して稽古に励んできました。ここま

で来られるとは思いませんでした。このチームは、試合運びが慎重になり過ぎることが多いので、積極的に攻め、先を取るといふことを念頭に臨むよう指導しました。まだまだ課題もありますので、さらに精進して、

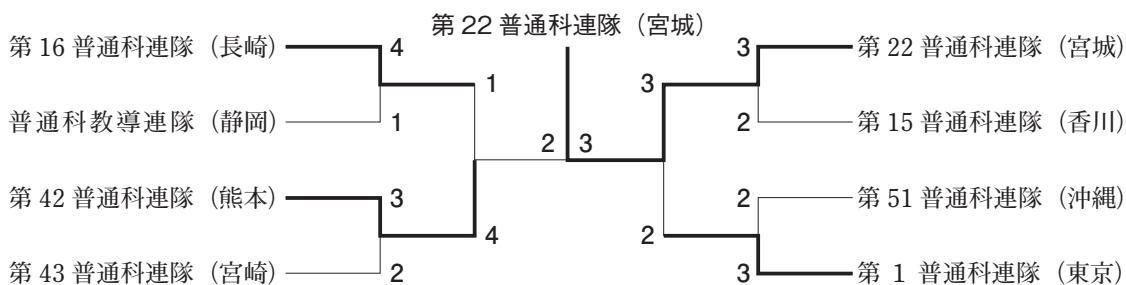
もっと強い剣士を育てたいです」

防衛省第2部

119チームが出場。トーナメント方式で、1チーム5名の団体戦が行われた。

準決勝には、春日井（愛知）、前回3位の対馬（長崎）、前回10連覇を遂げた日本原（岡山）、百里（茨城）

防衛省第1部組合せ（ベスト8以降）



が勝ち進んだ。

◇準決勝

対馬 5-0 春日井

山下圭太 判 崎山 真

塩釜清彦 判 今倉祥議

吉田精一 判 坂口和英

竹中宏信 上判 上 森 純平

初村文也 判 山口 輝

先鋒戦から大将戦まで勝敗は判定にもつれこみ、全ての試合で対馬が勝って決勝進出が決まった。

日本原 4-1 百里

上田啓二 ノカ 小澤大輔

植田晋悟 上 美馬正治

藤原考貴 上 片野友生

徳田裕人 上 地頭蘭薫

高島武志 上上 青山尚宣

日本原は先鋒が2本勝ち、次鋒から副将まではそれぞれ一本勝ちして、一気に勝負を決めた。

◇決勝

日本原 3-2 対馬

上田啓二 判 山下圭太

植田晋悟 判 塩釜清彦

藤原考貴 上 吉田精一



防衛省第2部決勝中堅戦＝日本原・藤原（左）が上胴を決める

徳田裕人 判 竹中宏信
高島武志 下 初村文也

先鋒戦の上田対山下は、判定にもつれた結果、上田が勝つ。続く次鋒戦も判定となり、対馬・塩釜に旗が3本揃って勝ち、五分となる。中堅戦では日本原・藤原が対馬・吉田から終盤に上胴を奪って一本勝ちする。副将戦の徳田対竹中は決めの手のないまま終了し、判定で徳田が勝って日本原の優勝が決まった。大

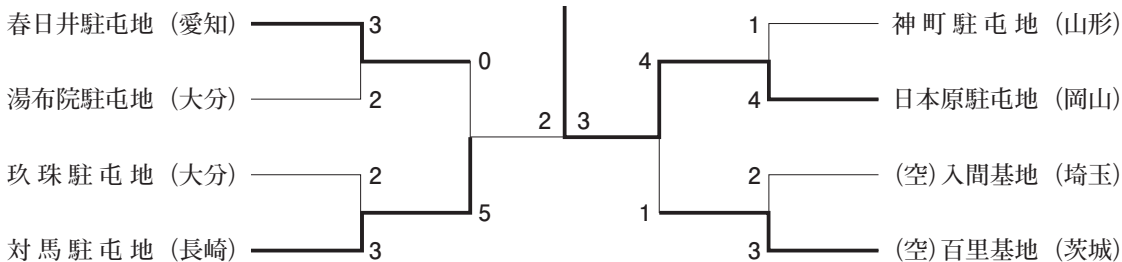


防衛省第2部優勝＝日本原駐屯地（岡山）

将戦は対馬・初村が下胴を決めて勝ち、結果は3対2。日本原は11連覇を成し遂げた。
◎優勝Ⅱ日本原・南條和志監督
「やはり連覇のプレッシャーがありますので、今年も優勝できてほつとしています。伝統の継承の一員であるという意識が選手の中にあることが、他の部隊との大きな違いであり、優勝にも繋がっているのではないかと思います」

防衛省第2部組合せ（ベスト8以降）

日本原駐屯地（岡山）



日本武道館の単行本

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

マンガ・武道のすすめ

(B5判・236頁)

マンガ・武道のすすめ

田代しんたろう



日本武道館

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化!

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。

大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

《目次》

序章 武道のすすめ

松永光(日本武道館)／高村正彦(武道議員連盟)／有松育子(文部科学省)

第1章 いざ! 武道の世界へ

第2章 柔道のすすめ

大澤慶己／長谷川博之／腹巻宏一／吉村和郎／山内直人

第3章 剣道のすすめ

森島健男／角正武／千田重光／井上茂明／小林知洋

第4章 弓道のすすめ

森永良雄／吉本清信／宇佐美義光／柴田猛／大和田正孝

第5章 相撲のすすめ

塔尾武夫／住吉和則／下村勝彦／安井和男

第6章 空手道のすすめ

金城裕／長谷川伸一／安里廣之／山本英雄／大石武士

第7章 合気道のすすめ

多田宏／磯山博／菅沼守人／珠玖仁

第8章 少林寺拳法のすすめ

合田清一／阿達美恵子／八巻哲／松浦哲也

第9章 なぎなたのすすめ

澤田花江／梶山武子／一川治子／左村美穂子／大津博美

第10章 銃剣道のすすめ

桑原正治／兼坂弘道／遠藤守／石川慎也／北村弘之

第11章 古武道のすすめ

竹内藤十郎(柔術)／笹森建美(剣術)／加藤伊三男(槍術)／小笠原清忠(馬術)

日本武道館の歴史



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



今、なぜ武道か
—文化と伝統を問う—

福島大学教授
中村 民雄 著
(四六判・上製・370頁)



BUDŌ:
THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編
翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット
(B5判・上製・DVD付・336頁)



武道
子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー
菅野 純 著
(四六判・上製・410頁)

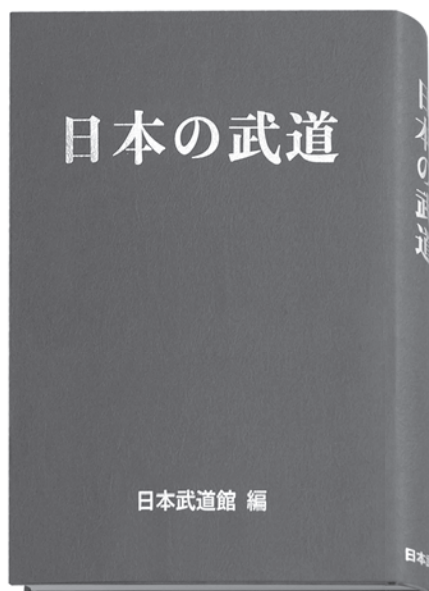


大先輩に聞く

月刊「武道」記者
田谷 将俊 著
(四六判・上製・376頁)

一千数百年の歴史を有する
武道の全容をこの一冊に集大成!!
武道小百科事典としても役立つ
充実した巻末の資料編!!

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・
少林寺拳法・なぎなた・銃剣道をはじめ、
各武道統括団体の全面協力によって完成!!



(B5判・上製・箱入・526頁)



日本武道館 編

日本の武道

日本の武道のすべてを網羅した武道関係者必携の書

東日本大学空手道選手権大会

国士舘大が3年ぶりの優勝

女子は帝京大が6連覇

第50回東日本大学空手道選手権大会は、5月5日に日本武道館で開かれた。大会には男子57、女子42チームが参加した。男子は決勝で国士舘が帝京を降し、3年ぶり3回目、女子は帝京が6年連続6回目の優勝を果たした。



《決勝・次鋒戦》国士舘・鹿村（右）対
帝京・野口＝鹿村の上段突きが決まる

試合は男子が5人制、女子が3人制、2分間6ポイント先取で行われ（男子のみ準決勝以降3分8ポイント先取）、初戦以外は勝敗が決した時点で終了とし、トーナメント戦で争われた。

《男子》

前回優勝（2連覇）、全日本でも準優勝と好成績を収めている帝京は、初戦（2回戦）で中部を5-0、3回戦で法政を3-1、準々決勝で東洋を3-0で降し、準決勝で日本と対戦した。帝京は先鋒戦を落とすも、その後は3連勝し、決勝に駒を進めた。

一方のブロックでは、前回準優勝の国士舘が、初戦（2回戦）で東北学院、3回戦で大正、準々決勝で拓殖、準決勝で早稲田と対戦し、全てストレート勝ちで決勝に進出した。

▽決勝

国士舘 ②-2 帝京

（ポイント差3で国士舘の勝利）

秋山龍一	1-8	○石塚将也
○鹿村良介	8-4	野口雅浩
○岡村将広	8-0	伊藤和航
小池麻琴	2-4	○三浦銀太
中山滝将	1-1	吉武優樹

決勝の攻防



《中堅戦》国士館・岡村（右）対
帝京・伊藤Ⅱ岡村の突きが伊藤
の上段をとらえる



《大将戦》国士館・中山（右）対
帝京・吉武Ⅱ中山が中段突きで
同点に持ち込んだ



《先鋒戦》帝京・石塚（上）対
国士館・秋山Ⅱ石塚が倒して
からの突きで一本を奪う



《副将戦》帝京・三浦（左）対
国士館・小池Ⅱ三浦の中段蹴
りが決まる

決勝は、破竹の勢いで勝ち進む国士館と、帝京の対戦。前回と同じ顔合わせとなった。国士館はこれまでのオーダーから中堅と副将を入れ替えた。一方の帝京は先鋒と次鋒に全日本強化選手の石塚、野口を据えて序盤でリードを狙う布陣。

先鋒戦、帝京・石塚は中段突き、中段蹴りを続けざまに決めて先制する。その後も倒してから突きを2度決めて勝利した。

次鋒戦、国士館2年の鹿村は帝京主将の野口と対戦。鹿村は、野口の上段突き、上段回し蹴りをもらってリードを奪われるも、右構えからの刻み突き（右肩写真）を重ねて逆転。さらに、野口が蹴りで攻めるところを見切り、最後は技ありとなるワンツーを決めて、星を取り戻した。

中堅戦、国士館主将の岡村は、開始早々、上段逆突きで間合いを詰めると、帝京・伊藤の足を払って倒し、突きで一本を奪う。その後も突きの連続技などで攻めて圧勝。国士館が一步リードした。

副将戦、帝京・三浦は国士館・小池から中段蹴り、上段逆突きを決めるなどして勝利。再び五分となった。

勝負のかかる大将戦は、国士館・中山と帝京・吉武が対戦。中山が右吉武が左構え。両者遠間から相手の出方を窺う中、吉武が跳び込んで中段逆突きを決めて先制。しかし、中山もすぐさま中段逆突きを返して並ぶ。その後は、中山が吉武の猛攻を受け切り、試合終了。大将戦は引き分けとなり、2―2で勝ち星が並ぶも、ポイント差3で国士館が勝利。3年ぶり3回目の優勝を果たした。

◎優勝Ⅱ国士館・亀山歩監督

「勝たたいという気持ちで相手より上回ったのだと思います。4年前、武道学科に空手道専攻が came しました。各学年20名程度の学生がいて、部員も80名近くなり、とても充実しています。学生たちを日本一に。それが、コーチ、監督、OBの仕事です。頑張ります」

◎優勝Ⅱ国士館次鋒・鹿村良介選手

帝京の実力者である野口選手から逆転勝利を奪い、流れを引き寄せた。「野口選手は体が大きく、向かい合うと圧迫感がありました。2年生なので、がむしゃらに向かっていくだけでした。チャンスどころを一つ一つ狙う。ただそれだけでした」



優勝Ⅱ国士館

◎優勝Ⅱ国士館主将・岡村将広選手
決勝では8―0で圧勝。ポイント数の面でも勝利に大きく貢献した。「全日本の強化選手だった先輩が2人抜けて、弱くなったと言われているので、結果を出せてよかったです。主将として、元気で団結力の強いチームをつくりたいです」

《女子》

5連覇中の帝京は、初戦（2回戦）で日本体育を3―0、3回戦で山梨学院を2―0、準々決勝で駒澤を2―1で降し、準決勝で大正と対戦した。先鋒戦は大正・山田沙羅が帝京・森口彩美を3―0で退けるも、中堅、大将戦で帝京が勝利。逆転勝ちで帝京が決勝に進んだ。

一方のブロックでは、前回3位の日本が順当に勝ち進み、準決勝で昨年準優勝の拓殖と顔を合わせた。1―1で迎えた大将戦、日本は多田野彩香が拓殖・美濃部彩加を8―2で退け、決勝進出を決めた。

▽決勝

帝京 2―1 日本

金子悠里 1―3 ○多田野彩香

○森口彩美 3―0 清水 咲

○植草 歩 4―3 伊藤 蓮

先鋒戦、日本・多田野は帝京・金子からカウンターの中段突きを決めて先制。続いて近間からの上段突きでポイントを重ねる。一方、金子は小刻みな足捌きから多田野の蹴りを誘い、中段突きに合わせて有効を奪う。一進一退の攻防の中、両者が同時に中段突きで攻めると、多田野の



《女子決勝・大将戦》帝京・植草（右）対日本・伊藤＝植草が深く踏み込んで中段突きを決める



《女子決勝・先鋒戦》日本・多田野（右）対帝京・金子＝多田野が金子の上段突きを捌いて中段突きを決める



《女子決勝・中堅戦》帝京・森口（左）対日本・清水＝森口が中段蹴りで技ありを奪う

それが一瞬早く、ポイントとなる。時間となり、日本が先制した。中堅戦、帝京・森口は中段蹴り、遠間からのワンツーで日本・清水を攻め立てる。その後、森口が上段逆突き、中段蹴りを決めて勝利。1―1で並んだ。

盤、植草は上段への連突きから深く踏み込んで、中段突きを決める。その後も植草は、上段突き、中段突きでリードを広げる。しかし、伊藤も近間からの後ろ回し蹴りを決め、ポイント3―3で並ぶ。

◎優勝Ⅱ帝京大将・植草歩選手
「決勝では、1―1で自分にまわってきたが、最後に帝京のいいところをみせつけてやろうと思いました。試合は、中段突きをベースに思うような組手が出来ました。昨年、全日本が終わってすぐ、主将に選ばれました。卒業した先輩方のように頼れる存在になり、仲間同士で支え合えるチームにしたいです」

【大会結果】

男子

▽優勝Ⅱ国士館

▽準優勝Ⅱ帝京

▽3位Ⅱ早稲田、日本

女子

▽優勝Ⅱ帝京

▽準優勝Ⅱ日本

▽3位Ⅱ大正、拓殖

《優秀選手賞》

□男子Ⅱ▽鹿村良介（国士館）▽

小池麻琴（国士館）▽岡村将広（国士館）▽三浦銀太（帝京）

▽石塚将也（帝京）▽末廣哲彦（早稲田）

□女子Ⅱ▽森口彩美（帝京）▽植

草歩（帝京）▽清水咲（日本）



女子優勝＝帝京

日本武道館の単行本

空手評論家
金城

裕
(さんじょう ひろし) 著

唐手から空手へ

題字 松永光 日本武道館会長

唐手から空手へ

日本武道館

金城 裕

(四六判・上製・四五四頁)

今の空手は、その源流である唐手^{からて}の精神と伝統の技を忘れて成長してしまった。空手の将来に豊かな展望を持つためにも、唐手誕生の歴史を正しく認識する必要がある――。

空手修業歴八十年。生涯を空手に捧げてきた著者が史料を繙きながら、唐手が誕生し、空手となった過程を辿る。武道研究者必携の一書。

〈目次〉

- 第一章 「唐手」とは、の問いに答える
- 第二章 中国拳法を巡って
- 第三章 琉球と中国の関係史
- 第四章 松村宗昆、「手」に息吹きを与える
- 第五章 首里手から唐手へ
- 第六章 「唐手」から「空手」へ
- 終章 空手の進むべき道



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)

日本の武道

日本武道館 編



一千数百年の歴史を有する武道の全容を一冊に集大成。武道小百科事典としても役立つ充実の巻末資料など、武道関係者必携の書。

(B5判・上製・箱入・526頁)

我が空手人生

金澤弘和 著



国際松濤館空手道連盟館長 金澤弘和 著
父母の教え、「からて」との出合い、厳しい修行、組織の結成、そして独自の空手理論構築まで、世界に空手を普及した男の記録。

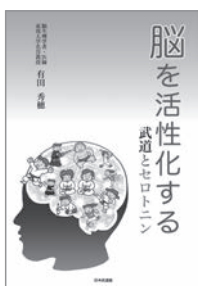
(四六判・上製・372頁)

脳を活性化する

武道とセロトニン

東邦大学名誉教授

有田秀穂 著



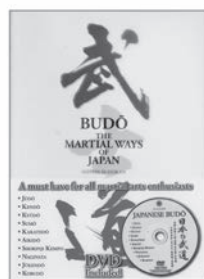
人間の心身を安定させるセロトニン——。その研究の第一人者が、誰もができる脳を活性化させる方法をわかりやすく解説。

(A5判・並製・346頁)

BUDŌ:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編



武道のすべてを網羅した『日本の武道』の英語版。海外武道修業者におすすめの書。

(B5判・上製・336頁・DVD付)

マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著



武道の良さ、すばらしさを、わかりやすく描く。大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。空手道は5話を掲載。

(B5判・並製・236頁)

大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷将俊 著



各武道の先達三十名に直接取材。武道との出会いから修行時代、そして現在を語る。空手道では江里口栄一、辻川禎親、金城裕の3氏を収録。

(四六判・上製・376頁)